パラアスリート選手 インタビュー企画 インタビュー

東京 2020 パラリンピック バドミントン銅メダリスト 伊藤則子選手

「周りへの感謝を忘れず、常にボジティブに。 一日一日を大切に。」



伊藤選手といえば、東京 2020 パラリンピックで正式競技として初採用されたバドミントン競技で鈴木選手とペアを組み、銅メダルを獲得し、話題となりました。

今回は、パラリンピアンのライフスタイルに迫るとともに、パラリンピックの会場や試合の様子、 試合中に心がけていることなどについてインタビューさせていただきました!



# バドミントンを始めたきっかけを教えてください。

伊藤 大学4年生の時に、パラバドミントンに関わりのあった大学職員に、名古屋で開催される日本選手権を見に行かないかと誘われて、初めてパラバドミントンに触れました。その試合を見て、自分にもできるのではないかと思い、競技を始めました。

## 一 バドミントンの楽しいところを教えてください。

伊藤 相手の苦手なところやコートの空いた場所を狙うなどのかけひきや多彩 なショットの種類があることです。またシャトルを打つ時の打球感が爽快なと ころも魅力です。

#### 一 苦しいことや、つらかったとき、どのようにして乗り越えてきましたか。

伊藤 家族や友人、サポートしてくれる方々に時には弱音を吐きつつも、気持ちを共有し、アドバイスもいただきながら、頑張ってこられました。また、大好きなバドミントンを続けたい、もっとうまくなりたいという気持ちを強く持って、競技に向き合えたこともあると感じます。

# 目標を達成していくために大切にしていることや取り組んでいることを 教えてください。また、普段から心がけていることを教えてください。

伊藤 周りの方の応援やサポートや競技ができる環境がないと競技を続けていくことは困難だと感じています。常に感謝の気持ちを持って取り組んでいます。

また、ネガティブに考えてしまいがちなので、ポジティブに考えるように心がけています。

#### ― 銅メダルを獲得したその勝因を教えてください。

伊藤 コロナ禍で大会が開催され、コートに立てていることに感謝と喜びを感じ、よい緊張感の中で、応援、サポートしてくださっている方たちによい報告をしたいという気持ちで頑張れたことです。また大会に向けてしっかり体作りと練習をすることができたことです。



選手村の外観

#### 一 選手村で印象に残っていることを教えてください。

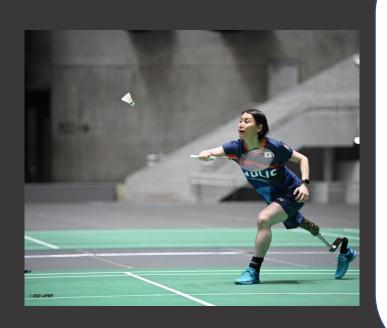
伊藤 食いしん坊なのでおいしい食事、特に日本食を 食べられたことです。

また、至る所で多くのスタッフ、ボランティアの方が 活躍してくださっていて、笑顔でお声掛けいただいた ことです。

あと、とにかく広い!という印象です。



選手村の食事



#### 一 今後の目標を教えてください。

伊藤 若いと言える年齢ではないので、一日一日を大切にしながら、しっかりトレーニング、練習を重ね、今以上のパフォーマンスを発揮できるように努力し、その先に3年後のパリ大会があればよいと思っています。

また、パラバドミントン、パラスポーツの普及、発展のために活動もしていきたいです。

#### 一 愛知県の未来のアスリートにメッセージをお願いします。

伊藤 まずはチャレンジしてみてください!

パラスポーツを始めたり、競技をする環境を存分に活かして、スポーツの楽 しさを感じながら、それぞれの目標に向かって頑張ってください。

一緒に愛知県のパラスポーツを盛り上げていきましょう。

## プロフィール

伊藤 則子(いとうのりこ)

株式会社中日新聞社

1976年生まれ。名古屋市出身。同朋大学卒。

2019年には世界選手権(スイス)女子ダブルス3位、 タイ国際大会女子ダブルス優勝。2020年は、第6回 日本障がい者バドミントン選手権大会女子シングルス 優勝。東京2020パラリンピックでは、女子ダブルス で3位銅メダルを獲得した。

得意スタイルは、前衛でのブロック。



掲載サイト:愛知県スポーツ局競技・施設課「aispo!Do!」

https://aispo-do.jp/